

令和4年度
保護者からの事業所評価の集計結果（公表）

令和5年3月1日 事業所名：豊島区立西部子ども家庭支援センター

回収数 56 件

		チェック項目	はい	どちらともいえ ない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	99%	1%	0%	0%	・今年度は人数も少ないせいか十分ぐらいである。	
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	86%	7%	1%	6%	<ul style="list-style-type: none"> ・ST・OTの方は専門的ですが、他のスタッフの方とは情報連携はないです。 ・ST・OTの専門分野の先生がもっと増えてくれるといいなと思う。 ・療育に関わる人員がもっと増えてほしいと思いました。 ・3ヶ月に1度OTを受けているが、もう少し頻度を増やせると有難いです。 ・もう少し予約が取りやすいといいです。 ・専門の先生（OT・ST等）の予約がより取りやすくなると更に利用しやすいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約が取りづらく、ご迷惑をおかけしております。次年度は専門相談の枠の増設をし、改善に取り組みます。 ・保護者会等で職員の紹介を取り入れていきたいと思います。

						・職員の方それぞれに専門があると思うのでそれを知れる機会があると良いと思いました。		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境 ⁱ になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	93%	1%	1%	5%	・現場の先生方が創意工夫してバリアフリー化がなされていますが、常態化した設備の強化ができればいいなと思います。現場の先生方の負担を減らしていただきたいです。 ・本来の活動とは違う遊具が置かれ気が散りやすい（狙っているのかは不明）事業所と別の場所を借りて活動した時は、掲示物が気になり目隠していただいた。	・今後も少しでも利用しやすい施設になるよう、検討・工夫していきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	99%	1%	0%	0%	・玩具や本など活動中に先生たちがテキパキと消毒してくれている。子どもたちも先生が消毒するのを分かっているからお片付け場所も分かっているのが良い。	
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画 ⁱⁱ が作成されているか	95%	1%	0	4%	・何でも聞いてくれて作成してくれる。そんなことまでと思うくらい聞いてくれる。	
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適	86%	1%	0	13%	・児童発達支援のガイドラインを見たことがないので分かりませんが、子どもの支援に必要な内容で支援計画が作られていると思います。 ・こちらが悩んでいることをきれいにまとめてくれて支援活動を作成してくれる。	

	切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか						
⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	91%	1%	0%	8%	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが苦手なことを一つ一つ丁寧に支援してくれている。 ・もちろん子供は喜びますが、室内での活動により強い意義を感じます。以前に外遊びの時間がとても長い日があり少し気になりました。 	・活動や支援の狙いをお伝えしていきます。
⑧	活動プログラム ⁱⁱⁱ が固定化しないよう工夫されているか	82%	9%	0%	9%	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の気分がのらない時は順序、内容をその場で見直していただける。 ・臨機応変にいろいろやってくれていると思う。 ・いつもと違う流れだと子どもが戸惑うことがある。 	
⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	39%	14%	11%	36%	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイルームなどで会うことがあるのかもしれませんが、交流といえるものではないように思います。 ・個々としては保育園で交流があるが、センターの取り組みは不明。 ・コロナだから仕方ない。これについては、区立のプレや園庭開放を案内するとよい気がする。 ・遊びに来れる環境であると聞いています。世間の状況下を考えると仕方ないことだと理解しています。 ・まだした事はないです。 	・今年度は保育園交流の計画があったものの、残念ながら台風で実施に至りませんでした。ご意見も踏まえ、今後も機会を作っていきます。

						<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に活動の予定はあったみたいけど、コロナが増えたり減ったりで予測不可能だからしょうがないと思う。 ・利用なし。 ・コロナ禍なので仕方ないかと思います。 ・今常時利用ではないのでわからない。 ・実際にはないですが、機会があることは知っています。 	
保護者への説明等	⑩ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	93%	3%	0%	4%		
	⑪ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	86%	1%	6%	7%	<ul style="list-style-type: none"> ・⑥に同じ ・丁寧にしてくれている ・計画相談担当者が作成して下さる計画書がとても素晴らしいと思っています。文面だけで子の現状や成長、課題が分かりやすく家族にも喜ばれています。ありがとうございます。 	
	⑫ 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング ^{iv} 等）が行われているか	62%	5%	5%	25%	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレンターの方が、何でも聞いてくれるのでありがたい。 ・特に案内はいただいていない。 ・ペアレントメンターに1度参加させて頂きましたが、今後、「知的障害のあるお子さんを育てた方」等メンターの方のプロフィールが予めわかると参加しやすいと感じました。自閉症＋多動＋知的障害のお子さんを育てていらっしゃる方がいれば特に積極的にお話を伺いたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様にご参加しやすいよう、メンターさんのご紹介を入れてのご案内について検討いたします。

						すし、「前回とは違うメンターの方」みたいなことも知れたらよいです。 ・ペアトレーニング等が良く分らないです。 すみません。	
⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	89%	1%	5%	5%	・自由あそびの時間などに先生方が子どもの様子について声をかけてくださりありがたいです。 ・行き帰りで先生が話してくれるのでお互いに理解ができていると思う。 ・3ヶ月に1度のため特になし。	
⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	88%	5%	1%	6%	・定期的な面談はないが心理士の方が担当が変わった時はお声がけいただいた ・発達サポートファイルの存在を知らない人が多いので伝えるとなお良い。 ・3ヶ月に1度のため特になし。	・発達サポートファイルにつきましては積極的な活用をお伝えしてまいります。
⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	52%	6%	4%	38%	・父もオンライン等で参加できるようなイベントや講座があるとなお良い。 ・就学相談やペアレントメンターは、オンラインにすれば人数制限が不要になる。 ・毎回オンラインの保護者会は先生たちが試行錯誤でやっていて大変だと思う。 ・3ヶ月に1度のため特になし。 ・懇談会があるのがとても有難いですが、欲を言えば月に2回くらい機会があると嬉しいです。	・オンラインの保護者会は力不足の面もあり、ご不便をおかけいたしました。今後はセンターでの保護者会を中心に実施していきます。

	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	90%	4%	0%	6%		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	91%	4%	0%	5%		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	63%	11%	4%	22%		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	86%	5%	0%	9%		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	68%	9%	0%	23%	<ul style="list-style-type: none"> ・今常時利用(通所)ではないのでわからない ・以前、不審者が来た場合の訓練をされていたと思いますが、事前に知らせて頂けると有難かったです。子どもが危ない目に合うんじゃないかと思いました。 	・今後もご負担のないよう、訓練を実施していきます。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	52%	6%	4%	38%	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ3、4か月目なので参加できていないのかな？ ・今常時利用でないのわからない ・たまには親子での避難訓練があってもよいかも。 	

満足度	②	子どもは通所を楽しみにしているか	93%	5%	1%	1%	<ul style="list-style-type: none"> ・グループがある日は、楽しみに保育園に行ってお迎えを心待ちにしています。 ・毎回とても楽しそうに活動しています ・行きは教室にはいりたくない時もあるけど自分のタイミングで入り活動時間を楽しんでいる。帰りに「センター楽しかった？」と聞くと「楽しかったよ」と答えてくれる。 ・OT・ST を利用させていただいていますが、子どもが集中できるような声掛けや指導を毎回されており子どもも楽しみにしています。 ・楽しい所と分かっているので嫌がらなくなった。 ・最初は泣いていましたが、今は笑顔も増え、本人なりの楽しさを見つけられたんだと思います。 ・特にトランポリン。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんとご家族が安心して楽しく通えるよう、今後も務めてまいります。
	③	事業所の支援に満足しているか	86%	11%	1%	2%	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも過ごした内容を親切丁寧に説明していただいています。 ・通い始めてから大きく成長したように感じます。 ・先生たちがとてもよくしてくれる為子どもがグングンと成長しているのが分かる。毎回通所する度に有難いと感謝しかない。 ・もう少し頻度をあげてほしいが、難しいというのも理解している。 ・支援内容は満足ですがもう少し予約が取れるといいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の頻度や予約の取りづらさに関しましてご不便をおかけしております。次年度は専門相談の枠の増設をし、改善に取り組みます。

						<ul style="list-style-type: none"> ・いつも話を聞いてくださりアドバイスをくださります。本当に心強いです。 ・いつも気配りして下さって助かっています ・特性の強い子どもフォローして下さりありがとうございます。母だけでは出来ないことも多くとても助かります。 ・もう少し予約が取れると嬉しい。 ・療育の利用回数が増えると有難い。 	
--	--	--	--	--	--	--	--

☆「わからない」には未回答を含みます。

☆その他（ご意見・ご感想）

・支援センターに通うことで安心感があると共に、将来への不安もありますが相談できることに感謝しています。

個別の面談で本人はリラックスできるのですが、集団の中での姿を評価できないのが心配ではあります。その点は保育園の心理士の方に見ていただけるように連携していただきました。それも支援の手帳を習得したことで手続き、連携ができました。

・予約（OT・ST）が取りづらいのは、難点かもしれません。

・数か月に1度のペースで受けている為、判断のつかないものに対しては、「わかりません」を選択しています。

・①～④項目に対してまとめていただいたご意見・ご感想

必要としている子供多い施設であるにも関わらず、交通の便があまり良くない区の端っこという立地が残念に思います。区の中心部や拠点を数ヶ所にするなど、小さな子持ちの利用しやすい配慮があると良いと思います。支援や職員の方々の対応等には満足しています。

（注釈）

i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、

総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

- iii 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。
- iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。